

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	一般財団法人住友生命福祉文化財団	
施 設 名	住友生命いずみホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	27,772	(千円)
	公 演 事 業	24,285 (千円)
	人 材 養 成 事 業	737 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,750 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	住友生命いずみホール 開館30周年記念コンサート	令和3年3月25日	曲目／J.S. バッハ：G線上のアリア、ベートーヴェン（川島素晴編）：ピアノ協奏曲 第5番《皇帝》、西村朗：ベートーヴェンの8つの交響曲による小交響曲、他 出演／飯森範親（指揮）、田部京子、富田一樹、いずみシンフォニエッタ大阪	目標値	700
		住友生命いずみホール		実績値	335
2	いずみシンフォニエッタ大阪 第44回定期演奏会	令和2年7月4日	曲目／川島素晴：尺八協奏曲、ベルク：ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」、西村朗：12奏者と弦楽のためのくヴィカラーラ（委嘱新作／2020） 出演／飯森範親（指揮）、藤原道山、郷古廉、	目標値	500
		住友生命いずみホール		実績値	281
3	古楽最前線① クリストフ・ルセ	令和3年3月16日	※公演中止	目標値	400
		住友生命いずみホール		実績値	中止
4	古楽最前線② ロ短調ミサ	令和2年9月25日	※公演中止	目標値	550
		住友生命いずみホール		実績値	中止
5	古楽最前線③ マタイ受難曲	令和3年1月28日	※公演中止	目標値	580
		住友生命いずみホール		実績値	中止
6	バッハ・オルガン作品アンコール演奏会③	令和2年11月21日	※公演中止	目標値	550
		住友生命いずみホール		実績値	中止
7	古楽最前線④ 無伴奏チェロ組曲	令和2年12月10日、11日	※公演中止	目標値	1,000 2日計
		住友生命いずみホール		実績値	中止
8	榎本大進リサイタル	令和3年1月13日	曲目／プロコフィエフ：5つのメロディー op. 35bis、フランク：ヴァイオリン・ソナタイ長調、武満徹：妖精の距離、他 出演／榎本大進、キリル・ゲルシュタイン	目標値	620
		住友生命いずみホール		実績値	335
9	いずみシンフォニエッタ大阪 第45回定期演奏会	令和3年2月6日	曲目／I. ストラヴィンスキー：ダンス・コンセルタント（1942）、J. ヒグドン：ソプラノサクソフォン協奏曲（2005）、酒井健治：Photons（2015）、他 出演／大井剛史（指揮）、上野耕平、いずみシンフォニエッタ大阪	目標値	410
		住友生命いずみホール		実績値	267
10	古楽最前線⑥ ヨハネ受難曲	令和3年2月20日	曲目／J.S. バッハ：《ヨハネ受難曲》 BWV245 出演／鈴木雅明（指揮）、バッハ・コレギウム・ジャパン、松井亜紀、久保法之、他	目標値	577
		住友生命いずみホール		実績値	274
11	バッハ・オルガン作品アンコール演奏会④	令和3年2月23日	※公演中止	目標値	575
		住友生命いずみホール		実績値	中止

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	青少年のための現代音楽 作曲講座「実演を通じて拓 く音楽の未来」	令和2年7月4日 令和2年7月22日 令和2年8月4日 令和2年8月17日 令和2年8月18日	講師／川島素晴（作曲家） 演奏／いずみシンフォニエッタ大阪メ ンバー 内容／5回の講座での作品指導と、成 果発表会、 ※講座は現場での聴講と配信による聴 講を可能とした。 受講生／高校生から大学院修了生ま での5名		12×4日 間／成果 発表会1 回・200
		住友生命いずみホール			参加者 計72名 WEB聴講 (有料) 96名 公演WEB 視聴 (無料) 409名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	いずみ子どもカレッジ	令和2年7月28日	※公演中止	目標値	580
		住友生命いずみホール		実績値	中止
2	古楽最前線特別企画 レクチャー「ロ短調ミサ」	令和2年8月28日	講師／富田 庸(英国ベルファスト・クイーンズ大学教授) 内容／J. S. バッハ《ロ短調ミサ》の作品背景や近年の研究成果を紹介しながら、作品鑑賞の手助けとなる講座を開講した。	目標値	150
		ホテルニューオータニ大阪		実績値	102
3	夢コンサート	令和2年10月6日	※公演中止	目標値	670
		住友生命いずみホール		実績値	中止
4	住友生命いずみホール音楽講座	令和2年11月11日	曲目／ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第1番へ短調 op. 2-1 より、バガテルイ短調「エリーゼのために」 WoO 59、「トルコ行進曲」による変奏曲 二長調 op. 76、他 出演／西村朗、いずみシンフォニエッタ大阪メンバー	目標値	560
		住友生命いずみホール		実績値	345

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>今年度の事業の中心的存在であった公演事業の「古楽最前線」シリーズ全6公演、「バッハ・オルガン作品アンコール演奏会」2公演について、それぞれ年間セット券が166セット、133セットと予定枚数に到達し、当該事業に対する地域の期待・ニーズは高かったと考えている。</p> <p>しかし、新型コロナウイルスの影響により「古楽最前線」1公演を除き中止を余儀なくされた。延期開催実現に努め、「30周年記念コンサート」（公演事業番号1）は4月から翌年3月に延期して開催できたものの、「古楽①」（同3）、「古楽③」（同5）は延期日程を確保したものの感染状況が好転せず中止となった。</p> <p>また、未就学児を含む児童の参加を想定した「子どもカレッジ」（普及啓発事業番号1）は開催時期（7月）時点で子どもへの感染やその対策等が明確になっておらず、参加者の安全のため開催を断念。障がい者とサポート者を招待する「夢コンサート」（同3）では、介助者、スタッフなど不特定多数との体の接触機会があるため開催協力団体と協議の上中止とした。</p> <p>一方、実施できた事業では感染拡大予防のため、緊急事態宣言、措置が解除されている期間も収容率50%を維持、消毒・検温等の対策を実施。「現代音楽作曲講座」（人材養成事業番号1）ではリハーサル室を予定していた講座会場をホールに変更、かつリモート聴講を実施した。「レクチャー『口短調ミサ』」（普及啓発事業番号2）はホテルの大規模会場に変更するなど、感染防止、密を避けての実施をすることができた。</p> <p>全体としては約半数の事業の中止により、当初の予定通りの達成はできなかったが、公演事業では「いずみシンフォニエッタ大阪」の活動を軸にした事業、人材養成事業では、作曲家を志す受講生に学びの機会を提供できた。普及啓発事業では、クラシック音楽に親しみ知見を広げる機会を提供することができた。新型コロナウイルスの影響を大きく受けた年度ではあったが、ミッション「世界とのドア」「地域とのつながり」を具体化することができたと考えている。</p> <p>地域のニーズとして特に取り出した「子どもの鑑賞機会提供」については、主催公演に学生券（一般の半額）、ユースシート（小学生～18歳の青少年対象の無料招待）を設定しているほか、大阪市音楽団が開催する「小学校（幼稚園・保育園）合同観賞会」に会場を無償提供。本格的な会場で音楽と触れ合う機会の提供の一翼を担っている。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>住友生命いずみホールは民間ホールであるが「音楽による社会貢献」を理念に、設立以来一貫して「地域の公共財」として、中規模ホールの特性を活かした独自の事業を実施している。</p> <p>令和2年度はいずみシンフォニエッタ大阪の活動に大阪府芸術文化振興補助金（公演事業番号1、人材養成事業番号1、普及啓発事業番号4）、大阪市芸術活動振興事業（公演事業番号2、9）の対象事業として支援を受けたことは、大阪府・市の「文化振興計画」が指し示す将来像「文化自由都市大阪」実現と軌を一にするものであると自負している。また、民間財団（花王芸術・科学財団、三菱UFJ信託芸術文化財団）からも助成を受けており、「世界とのドア」「地域とのつながり」をミッションに掲げた当ホールの事業の軸として評価していただいていることの証左と考えている。</p> <p>音楽の友誌読者アンケート（2021年4月号）で「好きな演奏会場」で上位（全国で5番目）にランクインしたことは、クラシック音楽ファンから一定の評価と支持を得ているものと推察する。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

(公演事業)

新型コロナウイルスの影響を大きく受け、11公演中6公演が中止せざるを得ない状況であった。

公演事業の入場者数目標は個々の公演の趣旨・目的を勘案して設定した。当初、定員の821席を基準に目標値を定めたが、感染予防対策の一環として、全公演とも定数50%となる410席での開催となったため、いずれも目標値を下回る結果となった。しかし、入場率で見た場合、実施公演の平均入場率は76%となり、当初目標入場率の平均(68%)を上回った。困難な状況の中で多くの方に足を運んでいただいたことで目標を概ね達成したと考えている。

指標としてSNSでの広報力の強化(ツイッターインプレッション数170万、フェイスブックリアクション数5千)と、会員数の増加(有料:フレンズ会員3,350名、無料:オンライン会員13000名)を設定したが、いずれも減少。SNS発信は公演の減少や緊急事態宣言下という状況で情報発信が少なく、実数は落ち込んでいるが、発信数に対する反応は上昇している(例:ツイッターのインプレッションの平均値2,600→3,400)。フレンズ会員(有料)は減少したとはいえ公演が激減、来場機会が半減する状況のなか、約9割の方が継続。オンライン会員は13,505名で目標を達成した。

ホール発信の情報の有用性の認知と、この先の企画への期待が反映されたものと分析している。今後の情報発信、公演の質を維持することを目指したい。

	目標	実績
平均入場率	68%	76%
Twitter インプレッション	170万	140万
フレンズ会員数	3,350人	2,992人
オンライン会員数	13,000人	13,505人

(人材養成事業)「青少年のための現代音楽作曲講座」

5名の受講生(高校生1名、大学生3名、大学院修了生1名)がこの講座のために新作を用意し、のべ5日間の講座を受講。川島素晴氏のアドバイス、2回目以降はいずみシンフォニエッタ大阪メンバーらが実演、奏法についての助言を行った。受講生からは「プロの演奏家に自作を演奏してもらい、聴き、助言をうける貴重な機会だった」という感想が寄せられており、未来を担う才能を発掘、新曲を演奏する機会を提供、という目標は十分達成された。この取り組みは日本経済新聞(2020年8月21日夕刊)、朝日新聞(2020年8月29日夕刊)でも紹介された。

感染対策のため、急遽実施したりリモート聴講であるが、講義のたびに書き変わる楽譜の変遷など、聴講生にも作品が出来上がる過程をみられるよう工夫するなどした。指標として設定した聴講50名に対し、96名のリモート聴講(有料)、成果発表会来場者200名に対し409名の動画視聴(無料)となった。単純な比較はできないが、概ね達成できたと思料する。

(普及啓発事業)

子ども向けの「子どもカレッジ」(普及啓発事業番号1)、障がい者とサポーター対象の「夢コンサート」(同3)は感染拡大予防の観点から中止としたが、「古楽最前線」の特別企画として実施した「レクチャー《口短調ミサ》」(同2)、「音楽講座」(同4)はコロナ対策で定員を減らした中、それぞれ指標として設定した65%を超える来場者を迎えた。バッハ研究の第一人者・富田庸氏による最新の研究を踏まえた講演会と、西村朗氏の作曲家ならではの視点、解説を交えたレクチャーコンサートで知識を深めたいという知的好奇心を持ったクラシック音楽愛好者のニーズに沿っていたと考えている。

- ・レクチャー(102名/150席=68%、応募は220名)
- ・音楽講座(345名/410席=84%)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

1. 事業期間

住友生命の社会貢献事業の一環であり、住友生命と同様に4月1日から3月31日を事業年度としている。事業期間も同様としており、予算策定から収益計上まで事業年度毎に行っている。新型コロナウイルスの影響を受け、4月5月は休館を余儀なくされ、7月の「いずみシンフォニエッタ大阪44回定期演奏会」(公演事業番号2)がホールの再開公演となった。事業期間内の延期開催を模索し、「住友生命いずみホール開館30周年記念コンサート」(公演事業番号1)は実施することができたが、多くの事業が中止に追い込まれ、計画通りにはいかなかった。

2. 事業費

5月の緊急事態宣言解除後に収容人数や収容率50%等の制限が要請された。その後、クラシック音楽については収容率100%での開催可との方向が示されたが、事態急変による制限の再発令に備えて事業期間を通して収容率50%を維持した。これは公演開催を通じて音楽文化の灯をお客様に提供し続けることが当ホールの使命と考えたものである。

結果として、実施できた事業において事業費の縮減に努めたが、販売できたチケットは座席数の50%以下となり、計画通りにはいかなかった。

3. 令和2年度実績

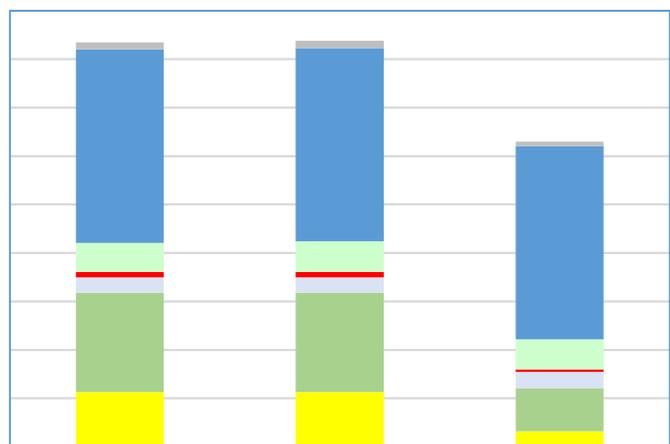
本助成事業も含めた当ホール全体の実績であるが、新型コロナウイルスの影響を受け、事業収入(公演チケット収入等)は前年比71%減、貸ホール収入は56%減となった。休業要請、収容率等の制限に加え、海外アーティストの渡航制限等もあり、公演の中止・延期が相次いだことによる。

特に貸ホール事業については、増収策としてライブ配信等に向けた「配信プラン」等を新設したものの、財務基盤が弱いアマチュア団体等の利用も多いことから、将来の地域の音楽業界の発展に寄与する主旨からキャンセル料の減免等の対応を実施したため大きく減収した。

一方で、協賛金は協賛企業1社増の前年比増収となったことは地域とのつながり、音楽文化振興への期待の表れと考えている。

また、本助成金、政府・自治体や民間団体の助成金・補助金は前年同水準が得られ事業継続への大きな力となった。

収入状況



H30

H31

R2

■ 事業収入

■ 貸ホール収入

■ 協賛金

■ 有料会員会費

■ 助成金、補助金

■ 住友生命寄付金

■ その他

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

住友生命いずみホールでは、オープン以来、故・礪山雅音楽ディレクターとの協働で「現在」を支点に「音楽の原点」と「音楽の未来」を見据え、海外アーティストの紹介、研究を踏まえた知見を紹介する企画などに取り組んできた。「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」の助成事業を中心に、地域の文化拠点としての役割を果たすべく、年間約 30 の主催事業を開催している（令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響を受けて 20）。

「音楽の原点」側の「古楽最前線」、「バッハ・オルガン作品演奏会」は海外の演奏団体や研究機関との提携によって実現したシリーズで、令和 2 年度がその集大成となるものであった。残念ながら「バッハ・オルガン作品演奏会アンコール」（公演事業番号 6、11）は全公演が中止、「古楽最前線」も 1 公演のみの実施となったが、唯一実施された《ヨハネ受難曲》（同 10）は当ホールの開館を機に発足し今や世界的演奏団体へと飛躍したバッハ・コレギウム・ジャパンの演奏。「この 30 年間に彼らがなした業績の重さに感無量」（MOSTLY CLASSIC・2021 年 4 月号／中村孝義）、「強い訴求力を放つバロック楽器オーケストラと、抑制された声楽陣によってこそ、この受難曲の想いは効果的に描き出されたといえよう（音楽の友・2021 年 4 月号／嶋田邦雄）と評され、記念碑的かつ意義深い演奏会となった。

一方、「音楽の未来」はホール専属オーケストラ「いずみシンフォニエッタ大阪」の活動が中心。令和 2 年度は「ホール開館 30 周年コンサート」（3 月 25 日、公演事業番号 1）と 2 回の「定期演奏会」（7 月 4 日：第 44 回、同 2、2 月 6 日：第 45 回同 9）で委嘱新作、委嘱作の再演、実演機会の少ない作品の紹介に取り組んだ。結成 20 周年の節目ともなった「第 44 回」の様子は NHK-FM「現代の音楽」で 3 週にわたり放送。緊急事態宣言解除後最初の演奏会でもあり、コロナ禍における「救いの祈りがふつふつと沸き起こる」「現状況下では最善を尽くした聞き応えのある」公演であったと評された（MOSTLY CLASSIC・2020 年 9 月号／中村孝義、音楽の友・2020 年 9 月号／伊藤征子）。

「第 45 回」で気鋭のサクソフォン奏者上野耕平を迎えて演奏したヒグドン作曲のソプラノサクソフォン協奏曲は「管弦楽が描き出す茫漠とした背景に音を浮かせてゆく立体映像を思わせる」と評された。一方で楽譜に演技の指示まで書き込まれたカーゲル作曲の DVERTIMENTO? は「（演奏後）文字通り疑問符だけが残ったが、すなわちそれがカーゲルの狙いだったのか」と考察している（音楽の友 2021 年 4 月号／能登原由美）。当公演の動画はアーカイブプロジェクトの一環として公開している（期間限定、令和 4 年 5 月 28 日まで）。

地域の文化拠点として、クラシック音楽を気軽に楽しむ機会、また、より深く楽しむための機会を提供することも重要な任務と考えている。いずみシンフォニエッタ大阪・音楽監督の西村朗が作曲家ならではの視点で名曲を読み解く「音楽講座」（普及啓発事業番号 4）は両方の役割を兼ね備えた存在。岡田暁生（京大教授・音楽学者）がナビゲートするランチタイム・コンサートとともに地域のお客様に愛される存在である。

今年度、「深く楽しむ」に特化したのは「古楽最前線特別企画レクチャー《ロ短調ミサ》」（同 2）である。富田庸（クイーンズ大教授・音楽学）が残された楽譜から《ロ短調ミサ》の謎に迫る講演を行った。「未だ謎の多い作品だが、多角的アプローチによってより深い理解と新たな喜びに遭遇できる」と最新の研究成果をもとに富田の語る内容に集まった来場者は興味深く聞き入っていた。当日の講演の様子は音楽の友 2020 年 10 月号に掲載された音楽ジャーナリスト寺西肇氏によるレポートによって広く共有されている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

日本経済新聞は2021年4月2日付夕刊で「ホール開館30周年記念コンサート」（公演事業番号1）について「バッハとモーツァルトという古典中の古典と座付きのISO（原文ママ：いずみシンフォニエッタ大阪、以下「ISO」と表記）による現代作品という2本柱で構成されたプログラムは、まさにいずみホールの30年を凝縮したもの」と報じた。

オープニングにバッハを演奏した富田一樹は大阪府出身、平成28年、第20回バッハ国際コンクールのオルガン部門にて日本人初となる第一位と聴衆賞を受賞した注目の若手である。大阪音楽大学在学中から当ホールのオルガンに親しみ、当ホールが主催したアルフィート・ガスト・マスタークラス（平成21年度人材養成事業）をきっかけに渡独。平成31年度「オルガンフェスティバル」（共催：日本オルガニスト協会、同年度人材育成事業、教育普及事業）に出演、令和3年度からはバッハを特集するオルガンコンサートシリーズのプロデューサーを務めるなど、当ホールとの協働を続けている。

一方、常任指揮者・飯森範親とともに出演したISOは、現代音楽の発信を目指し関西ゆかりの名手によって結成された、当ホールのレジデント・オーケストラ。当日は西村朗：《ベートーヴェンの8つの交響曲による小交響曲》、ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番《皇帝》（ピアノソロ：田部京子）とモーツァルト：交響曲第41番《ジュピター》を演奏した。ISOは、既存作品演奏のみならず、積極的に新作委嘱（うち7作は関西出身の若手作曲家に委嘱）を行うなど、現代作品のレパートリーの拡大を通じ、大阪・関西からの音楽文化の発信に務めている。同時にホール主催の「音楽講座」（普及啓発事業）にも参画するなどし、地域の文化芸術の発展の一翼を担ってきた。令和2年度に実施した「青少年のための現代音楽作曲講座」（人材養成事業番号1）は、この活動を未来へとつなぐ新たな一歩で、「触れて学ぶ芸術 模索の夏」（日本経済新聞2020年8月21日夕刊）、「現代音楽の卵にプロが実演指導」（朝日新聞2020年8月29日夕刊）と大きく報じられてもいる。

冒頭に紹介した記事では、故・磯山雅音楽ディレクターとの取り組みを「バッハ・オルガン作品全曲演奏会をやり抜いたり学説をもとにした新スタイルの実演を試みたり独自の企画で存在感を発揮してきた」としている。また、「他では聴けない作品を磨き上げられた演奏で聴いてもらうことが第一」というISO音楽監督・西村朗の言葉をひいて現代作品演奏が「いずみホールの独自性を支えるもう一つの柱」と位置付けている。

開館以来30年にわたる、学説に裏付けられた実践＝音楽の「原点」と「未来」を見据えた制作姿勢と発信、将来の音楽文化の担い手の育成、つまり「音楽による社会貢献」の取り組みが、地域の実演芸術等の振興と地域の文化芸術の発展に一定の役割を果たしてきたと評価のひとつ、と受け止めている。同時に、令和3年度より新たに音楽アドバイザーに就任する堀朋平への期待も込めて「いずみホールが決して大きくない規模ながら、30年間確固たる存在感を発揮できたのは企画力ゆえだ。古典作品にせよ、現代作品にせよ、中長期で一貫性のある企画が地域の聴衆の耳を育ててきた。ホールの成長は聴き手の成長と表裏一体だ。次の10年20年で、聴き手との関係にどれだけ新しいものを加えられるか。公演の都度の成否とは異なる視野が、新体制に求められている。」とある。今後も、引き続き地域のニーズ・期待に応えられるよう、「世界とのドア」、「地域とのつながり」を多くの方に実感していただける事業制作・ホール運営に努めたい。

地域の実演芸術の振興のため、将来の音楽文化の担い手の育成という点においては、アーティストばかりでなく支える側、アートマネジメントの領域の担い手の育成も不可欠である。コロナ禍の令和2年度は例年受け入れている大学生のインターン、中高生の職場体験は実施できなかったが、大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻で開講されている「音楽ホール運営論」には例年どおりスタッフを講師として派遣。コンサートホール運営に関する多岐にわたる業務をそれぞれの担当者が実践的に伝えた（前期はリモート講義、後期は対面演習）。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

1. 事業運営・経営戦略

当ホールの目的は「クラシック音楽の普及等を通じて音楽文化振興に貢献すること」であり、「世界とのドア」と「地域とのつながり」というミッション実現のため事業運営を行っていくことは不変である。そのために地域のニーズを汲み取り、芸術性を高めるため不断の努力を続けている。

上記実現のためには安定的な財務基盤が必要であるが、住友生命からの毎年の財団への寄付金 385 百万円（当ホール分見合いとして 199 百万円）が収入の約半分を占める安定基盤である。令和 2 年度よりホール名を「住友生命いずみホール」に改称し、住友生命との強固な連携を対外的に打ち出した。事業収入、貸ホール収入、協賛金の増収、ブランドを高めるため住友生命との連携を深める取組みを継続している。

地域のニーズを汲み取り、芸術性を高めていくことが、事業収入、貸ホール収入や有料会員会費の増収につながり、併せて、本助成金、政府・自治体や民間団体の助成金・補助金の実施主旨に伝えることになると考えている。ただし、お客様へのアプローチ方法等、P D C A サイクルの中で絶えず戦略の見直しを行っていく。

2. 人事戦略

財務基盤と人材が事業運営のための両輪である。そのために安定雇用（終身雇用）を前提とし、職員 24 名中 18 名が直接雇用・正規雇用職員である。平均年齢 45 歳、平均勤続年数 17 年、長期でキャリアパスを築ける仕組みになっている。一方で内向きの業務遂行となるリスクもあり、社外研修への参加、社外団体との交流を継続、若手の登用、新規採用も検討している。大阪音楽大学への講師派遣等も職員のスキルアップにつながっている。

新型コロナウイルスの影響を受け、業務が現場主体でありながら政府のテレワーク要請にいち早く応え、かつ職員の安全安心のため在宅勤務可能なシステム環境を整えた。緊急事態宣言期間中は出社率 50%を実現している。

3. ネットワーク

劇場・音楽堂関係団体、公立文化施設協会、姉妹ホール、教育機関等のネットワークを有しているが、新型コロナウイルスの影響を受けて社外との接触を避ける運営を行ったため、リモート等での情報収集にとどまった。コロナ禍終息後に向けて関係を維持していく。

4. P D C A

令和 2 年度に営業部を新設し、高齢者施設へのアプローチ、「豊かな 1 日の過ごし方を提案し新しいライフスタイルの一案を提供する」と表してランチセットプランへの取組みを計画していたが、新型コロナウイルスの影響を受けて外出を控えるなどお客様の生活スタイルが一変した。

この状況を受けて年度中ではあったが、従来の取組みも維持しながら「D X を用いた顧客とホールの新しい接点作り」を打ち出した。5 月 6 月には無料配信 3 公演を実施。5 月の公演は 1 年間で 6000 回超の視聴を得ている。また、配信用カメラ機材等への投資、ホームページの改修、オンライン入会システムの構築、チケット販売システムの改修、動画配信システムの構築に着手した。

上記 D X への取組み、調査・研究なども含め「コロナ禍からの再生」をテーマに次年度以降も取り組んでいくことで持続的な発展が得られると考えている。